

来月に知的障害者国内大会・7人制サッカー



「ファイト！オー！」と氣勢を上げるユニファイドサッカーのチームと八学大のサッカー部員



SON青森は夏坂選手（左端）の放ったシュートが八学大ゴールキーパー（右端）の横をすり抜けゴールネットを揺らす

本県チーム「まずは1勝」

八戸

知的障害のあるアスリートたちが競うスポーツ競技会・スペシャルオリンピック夏季国内大会（11月4～6日・広島県）に出場する「スペシャルオリンピック日本・青森」ユニファイドサッカーチームは23日、八戸学院大学男子サッカー部との交流試合を同大サッカー場で行った。両チームの約30人が20分ハーフで対戦、SON青森の国内大会での健闘を願った。（岡田圭逸）

八学大と交流試合

ユニファイドサッカーは、知的障害のある人（アスリート）と知的障害のない人（パートナー）がチームを組む7人制サッカー。試合に先立ち、八学大の水野眞佐夫学長が「皆さんと本学の学生がもっとスポーツを楽しめる環境づくりを応援していきたい」とあいさつした。

SON青森の選手は、八戸市や十和田市などに住む12人で、交流試合にはこのうち11人が出場した。SON青森は3-9で八学大に敗れたが、前半に1点を入れた紫葉雄太主将（30）「八戸市」は「国内大会では今日学んだことを生かしたい」、後半に2ゴールを決めた夏坂祥選手（21）「同」は「得点が入った時は、やったという気持ちになった」と話した。佐々木直樹監督は「国内大会では、まずは1勝を目指す。多くの人と交流を深めてきたい」と語った。

交流試合の運営リーダーを務めた八学大男子サッカー部2年・福山透哉さんはSON青森のメンバーに「頑張ってください。部員一同応援しています」と語りかけた。

八学大と八戸学院大学短期大学部は今回の取り組みを契機に、SON青森との連携・相互協力を進める構え。